

SDGsがわかる

伝える！ 国連の仕事

多様化する問題への解決策示すために



世界の平和と安全を守るために話し合う、国連の安全保障理事会の議場のようす
=2024年、米ニューヨーク ©朝日新聞社

「今年、国連が現在の国際情勢を反映した組織に改革していく節目の年にするべきです。」

1月、国連事務次長で、核兵器など戦争の道具を減らす軍縮部門のトップを務める中満さんが、

「今年、世界の平和と安全を守るための安全保障理事会(安保理)が、十分な役割を果たせていないといわれることがあります。安保理では、中国、フランス、ロシア、イギリス、アメリカ(米ロシイイフア)の5か国が常任理事国と呼ばれ、拒否権という特別な権利を持っています。1か国でも拒否権を使うと、安保理の決定をはばむことができます。」

ロシアのウクライナ侵攻や、パレスチナ自治区ガザでの戦闘をめぐってはロシアや米国が拒否権を使い、安保理が物事を決められない状況にもなっています。

また、安保理や国連全体の活動に大きな影響力を持つ米国の動向にも心配が広がっています。

米国のトランプ大統領は1月に国連の世界保健機関(WHO)からの脱退と、気候変動対策のためのパリ協定からの脱退を表明。国際機関への資金提供を大きく見直す方針も打ち出しています。

国連がより厳しい状況になることが予想される中、中満さんは会



ねもとかおる 兵庫県出身、東京大学法学部卒、アメリカ・コロロンビア大学大学院修了。テレビ朝日のアナウンサー、記者などを経て、1996年から2011年末まで国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) で勤務。国連世界食糧計画 (WFP) 広報官、国連UNHCR協会事務局長としても働いた。フリージャーナリストの活動を経て、13年8月から現職。

戦後80年をむかえる今年、国際連合(国連)がつくられてから80年でもあります。現在の国連は、各国がともに行動する国際協調の分野で世界最大の組織です。一方、世界の問題と向き合う中、「有効な解決策を示すことが十分にできていない現実もある」と国連広報センターの所長、根本かおるさんはいいます。国連の今を、根本さんが見つめます。



国連創設80年を記念するロゴ
国連広報センター提供

「今年、国連が現在の国際情勢を反映した組織に改革していく節目の年にするべきです。」

1月、国連事務次長で、核兵器など戦争の道具を減らす軍縮部門のトップを務める中満さんが、

「今年、世界の平和と安全を守るための安全保障理事会(安保理)が、十分な役割を果たせていないといわれることがあります。安保理では、中国、フランス、ロシア、イギリス、アメリカ(米ロシイイフア)の5か国が常任理事国と呼ばれ、拒否権という特別な権利を持っています。1か国でも拒否権を使うと、安保理の決定をはばむことができます。」

常任理事国の拒否権

ロシアのウクライナ侵攻以降、国連の安全保障理事会では、常任理事国のロシアが拒否権を使い、ウクライナ問題に関する決定をはばんできました。侵攻直後にはロシアに攻撃をやめるよう求める決議案が、ロシアの拒否権で否決されました。一方、イスラエルとイスラム組織ハマスによるパレスチナ自治区ガザでの戦闘をめぐり、米国がイスラエルをかばい、拒否権を使って使ったこともありました。



パレスチナ自治区ガザ地区をめぐり話し合い、拒否権を使う米国の代表
UN Photo/Mamun Elias

「今年、世界の平和と安全を守るための安全保障理事会(安保理)が、十分な役割を果たせていないといわれることがあります。安保理では、中国、フランス、ロシア、イギリス、アメリカ(米ロシイイフア)の5か国が常任理事国と呼ばれ、拒否権という特別な権利を持っています。1か国でも拒否権を使うと、安保理の決定をはばむことができます。」

中満さんの言葉は、戦後80年となる今年が、国連にとっても創設

「今年、世界の平和と安全を守るための安全保障理事会(安保理)が、十分な役割を果たせていないといわれることがあります。安保理では、中国、フランス、ロシア、イギリス、アメリカ(米ロシイイフア)の5か国が常任理事国と呼ばれ、拒否権という特別な権利を持っています。1か国でも拒否権を使うと、安保理の決定をはばむことができます。」

中満さんの言葉は、戦後80年となる今年が、国連にとっても創設

80年をむかえる特別な年にあたることにふれたものでした。国連は第2次世界大戦の後、戦争がもたらす被害から将来の世代を救うことを第一の目的に1945年10月につくられました。

加盟国は当初の4倍近い193か国になり、国際協調のための世界最大の組織となりました。

ただ、中満さんが語ったように、現在の多様な国際情勢に直面し、国連はなやみを抱えてもいます。戦闘や紛争をはじめ、地球温暖化の進行や、人々の格差の拡大、人工知能(AI)の登場による社会や産業の変化も。近年は、新型コロナウイルス感染症が世界で大流行した問題もありました。

国連は、それぞれの問題と絶えず向き合っていますが、加盟国と結束しながら有効な解決策を示すことが十分にできていない現実もあります。

「責任ある加盟国」日本への期待

見て、国連や安保理の改革に向け、日本に「もっとリーダーシップを発揮してほしい」とエールも送っていました。加盟国で最多の12回も非常任理事国をつとめた日本は、「責任ある加盟国」として他の加盟国から評価が高いからです。

その日本では、4月から大阪・関西万博が大阪市の夢洲で開催されます。35の国連機関が参加する国連パビリオンもあり、多くの国連機関のトップが日本を訪れます。さまざまな分野をリードする国連機関のトップたちが、日本でどんなメッセージを発信するのか。ぜひ、みなさんも見守ってください。

(掲載：朝日小学生新聞 2025年3月9日掲載)